

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671700254		
法人名	社会福祉法人 健祥会		
事業所名	グループホーム礼あり優あり		
所在地	徳島県吉野川市鴨島町麻植塚字向麻山西196-1		
自己評価作成日	平成30年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成31年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム礼あり優ありは国道192号線から100mほど南に入った閑静な場所に立地しており、最寄りの駅まで2キロの位置で隣には内科、歯科、皮膚科等があり、便利な生活環境にあります。当施設では個々のニーズに対応し、掃除、洗濯、調理などの生活リハビリ等を中心にケア提供し、馴染みの関係づくり、家庭的な環境を大切にしております。また、日常的な外出支援、入居者を中心とした生き生き料理教室、入居者の楽しみの一つである文化祭への作品づくりも行き、活動の幅を広げていけるように支援しています。併設施設のケアハウスと連携も図り、地域交流の場、地域へ向けての活動も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者一人ひとりの思いを大切に、要望にそったケアの実践に取り組んでいる。三つのユニットがそれぞれ“笑顔”、“自分らしく”、“ぬくもり”と実践目標を定め、グループホームの特性を活かした共同生活の中での生活リハビリ支援に取り組んでいる。管理者を中心に職員間のコミュニケーションを図り、食事へのこだわりを持った取り組みや排泄支援に熱心に取り組むことが、利用者の快適な暮らしにつながっている。地域との交流も積極的で、介護予防教室に協力したり、夏祭りや文化祭などの行事に参加したりしている。職員は、利用者一人ひとりに寄りそい、再び特技に取り組んでもらうことや、地域に出かけて楽しみを見つけられるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」朝礼時に職員が交代で理念を唱和し、理念について理解し実践できる体制を築いている。	事業所では、職員間で協議して考えた理念を定めている。また、ユニットごとに独自の実践目標も掲げている。職員は、朝礼時や日頃のケアの中で、理念を確認しながら実践に繋げている。新規に採用された職員にも理念や実践目標の共有化を図り、利用者一人ひとりと向き合い、その人らしい暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏まつり、文化祭に出かけ交流している。地域の清掃活動、廃品回収等の行事への参加。また、合同敬老会等を開催し、地域の老人会、森山幼稚園等地域との交流を図っている。	事業所では、定期的開催する行事に、地域老人会や幼稚園児、ボランティアの参加を得ることで、地域との交流に努めている。事業所として、地域の文化祭や夏祭りに参加したり、近隣中学校の廃品回収などに参加したりして、地域の一員として日頃から交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の方々に、認知症に関する研修や介護予防教室を開催し認知症について理解を深めて頂いている。また、実習生の受け入れも行い、認知症についての学びの場となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況や取り組みを報告し、参加メンバーから意見を聞き入れ、サービス向上に活かしている。得た情報で地域の行事等に参加している。消防の方にも参加して頂き、防災についての理解も深めている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の現況や取り組みを報告したり、課題などについて話しあっている。会議の中で受けた評価や意見、提案などは全職員に共有化を図ることで、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者、地域包括センター等と常に情報交換を行っている。また、定期的に市町村で開催している研修にも参加し協働関係を築いている。	職員は、市の担当窓口へ訪問し、現況報告書や申請書類を提出したり、事業所の現状や課題について相談したりしている。市主催の各種研修や事例検討会にも参加し、協働関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてホーム内研修会を開催し、職員が理解を深め身体拘束ゼロを掲げ、ケアに取り組んでいる。施設内に身体拘束0宣言を掲示している。	事業所では、身体拘束に関する研修会を開催し、その内容と弊害についての理解を図っている。利用者の自由な暮らしを支援するため、職員の介護力向上に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行い、話し合うことで虐待防止へ向けた取り組みを行っている。法令も理解し、遵守できるように努めている。施設内に高齢者虐待体制について掲示している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、入居されていた方が、成年後見人制度を利用されていた。今後同じようなケースが必要となりうるので制度について勉強会を開催し、職員に説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書の内容について説明を行いホームについて理解、納得を得るようにしている。また、利用時にリスク説明も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切に面会時等で意見を聞くようにしている。各ユニットに苦情処理箱を設置して家族様の意見を聴く体制も継続して行っている。またニーズ調査も実施している。	職員は、日頃の関わりの中で、利用者の意見を把握するよう努めている。家族の訪問時や行事参加時には、職員から積極的に話しかけて、意向を聞き取っている。出された意見や提案は、職員間で協議を行い、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人で開催している経営会議や、朝礼・職員会議時に意見や要望を聞く場を設けている。常日頃からコミュニケーションをとり、理解を深めている。	管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを大切に考え、個別に話す機会を作っている。職員からの意見や提案は、職員会議や経営会議で検討し、反映させている。研修参加への支援やキャリアパス制度導入などにより、職員の働く意欲の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が職員の評価体制を構築し、向上心を持つように働きかけキャリアアップ制度を設け、職員各自目標管理シートを作成して職環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でキャリアパス制度を構築している。介護技術等のチェックにより段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。職員が研修に参加しやすい環境づくりを行い、知識、技術の向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム部会、吉野川市地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し他のホーム職員と交流を持つようにしている。また、法人内施設(グループホーム・老健等)との交流も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面会し、不安や要望を知り、サービスについての説明を行い本人の安心を確保出来る関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の希望や要望を聴きホームで安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。今までの苦労や家族の意向を十分聴いたうえで対応し、信頼関係をつくるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時に本人の心身の状態を見極め本人にとってサービスが適切であるか判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けていただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員が共に支えあえる関係づくり。お互いが励ましあえる場面があり、おだやかな生活ができるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にしながら共に本人を支えていける体制づくりに取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設の行事に参加したり、地域の夏まつりや文化祭に出かけたり、本人の状態を考慮し支援している。主治医からの往診や受診も行っている。地域の理髪・美容店より施設に来て頂いて交流している。	事業所では、利用者一人ひとりの地域との関係継続に向けて、馴染みの理・美容室や商店などへの外出を援している。利用者の知人の来訪の際に、ハーモニカ演奏に合わせて皆で合唱を楽しむこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が、いつも笑顔で明るい雰囲気に関わりあえるよう日々のケアで楽しいコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしがどのようなものであったか情報を提供し、以前と変わらない生活を送れるよう最大限働きかけを行う。また、法人内の施設を利用してもらうことで交流を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わる中で思いや意向を確認し、何が最良なのか家族を交えて検討している。	職員は、日頃の関わりの中で、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。利用者の状態を記録した“気付きノート”をもとに、家族を交えて本人本位に検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、地域の人たちから情報を得られるように努めて自施設のサービスに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で、できることを見つけ作品作り・レクリエーションに取り組みその人らしく生活できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスに関して本人・家族・関係者・職員で意向・意見を聞き介護計画に反映している。穏やかに生活ができる介護計画作成に努めている。	事業所では、本人の意向や家族などの気づきを反映し、より良く暮らせるための介護計画書の作成に努めている。アセスメントとモニタリングを繰り返し、利用者の心身の状態の変化に応じた見直しを行うことで、現状に即した個別ケアを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護支援経過、モニタリングを作成している。職員間で申し送りノート等で情報を共有している。それを基に評価し今後の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状態変化(重度化等)する入居者の方ができるだけ生活できるよう支援している。本人、家族の状況に応じて通院・協力病院への受診、特養・老健の紹介など個々に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設への働きかけや、運営推進委員、民生委員、ボランティアへの協力を呼びかけている。また、ボランティア受け入れの際は剣の間を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医を決めている家族と協力し通院・往診を行っている。	事業所では、利用者本人や家族の希望するかかりつけ医を入居時に確認し、受診を支援している。かかりつけ医の受診は、家族の協力を得て行っているが、事前に本人の情報を得ることで、職員が同行支援することもある。協力医療機関と連携し、往診による対応も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の方の健康管理について看護師を配置している。介護職・看護職で連携し、常時利用者の健康管理や支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。退院後もかかりつけ医、協力医と連携を図り対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医、協力病院との連携を密に図り、対応している。	事業所では、入居の段階で、重度化した場合や終末期の対応について説明している。利用者の状態の変化に応じて意向を確認し、家族などの関係者と情報を共有しながら支援している。職員は、看取りに関する研修などを受講し、資質向上に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故を未然に防ぐ為、事故防止対策委員会を実施している。事故が起こった際には、検討委員会を開催し、事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合には迅速な行動がとれる体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備えとして、非常食を備蓄している。消防署の協力で利用者と共に避難訓練(BCP)等を定期的に行っている。地域の人も一緒に参加し協力体制を図っている。	年2回、消防署や地域住民の協力を得て、昼夜を想定した消火・避難訓練を実施している。近くの川が一定水位に達すると併設施設の上階に避難するなど、状況に合わせた確認を行っている。また、災害時用物品の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、十分注意するよう徹底している。また、普段の何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声掛けに配慮している。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。排泄や入浴介助の際に、さりげない声かけや誘導を行うなど、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組み、希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個性に合わせた生活の流れを理解し、一人ひとりに合わせた支援を重視している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はお化粧品やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど、本人の望む店に行けるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。(活き活き料理教室)野菜の収穫等も楽しんでいただき食事が楽しくなるように支援している。	事業所では、利用者と一緒に調理やおやつ作りをしたり、法人の献立をアレンジしたりして、食事を楽しめる工夫をしている。また、特色ある空港弁当を取り入れることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、不足していないか確認できる体制をとっている。水分摂取については、手作り水分ゼリーを提供している。また、認知症予防料理、全国空弁等といった趣向の凝ったものも提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っている。定期的に歯科衛生士による口腔ケア指導を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし、排泄パターンの把握に努め一人ひとりに応じた対応(トイレ誘導)を行っている。おむつゼロはもちろん、布パンツ着用率の向上に努めている。	事業所では、利用者全員の排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を目標に支援している。夜間頻尿で不眠だった利用者にも、アセスメントとモニタリングを繰り返し、画期的に改善した事例を持つなど、個別ケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取していただき、身体を動かす機会を作り献立の工夫、見直して自然排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前、午後どちらかで入浴できる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境を提供している。	事業所では、週3回入浴ができるよう支援している。利用者一人ひとりの希望に合わせて、夜間も入浴できる体制をとっている。家庭的な浴室で、1回ごとに湯を張り替えることで、気持ちよく入浴してもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムが安定できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て入居者本人の希望や嗜好に合った役割づくりを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところや、お買い物に出かけたり外食、ドライブなども行っている。	事業所では、日頃から散歩や買い出しなどを行っている。外出は、利用者の希望に応じるよう工夫している。また、家族の協力を得て、外出や外食を楽しめるよう支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			剣の間 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。家具などで安心して生活できるようにしている。吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっている。	共用空間にテーブルやソファを配置したり、和室に炬燵を置いたりして、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。壁面の掲示物や生花からは、季節を感じることができる。台所からは食器を用意する音や食事のかおりがするなど、家庭的な雰囲気の中で過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。	居室は洋室と和室があり、利用者一人ひとりの希望や心身の状態にあわせて使用できるよう工夫している。また、居室に使い慣れた家具や大切な人の写真を持ち込んでもらい、利用者が自分らしく暮らすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。自分の居室が分かりやすいような工夫を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川の間 実践状況	渦の間 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」朝礼時に職員が交代で理念を唱和し、理念について理解し実践できる体制を築いている。	理念「家庭的な環境のもとで、心と尊厳のある生活を一人一人のニーズに対応した介護サービスを提供します。」朝礼時に職員が交代で理念を唱和し、理念について理解し実践できる体制を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏まつり、文化祭に出かけ交流している。地域の清掃活動、廃品回収等の行事への参加。また、合同敬老会等を開催し、地域の老人会、森山幼稚園等地域との交流を図っている。	地域の夏まつり、文化祭に出かけ交流している。地域の清掃活動、廃品回収等の行事への参加。また、合同敬老会等を開催し、地域の老人会、森山幼稚園等地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会の方々に、認知症に関する研修や介護予防教室を開催し認知症について理解を深めて頂いている。また、実習生の受け入れも行い、認知症についての学びの場となっている。	地域の老人会の方々に、認知症に関する研修や介護予防教室を開催し認知症について理解を深めて頂いている。また、実習生の受け入れも行い、認知症についての学びの場となっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況や取り組みを報告し、参加メンバーから意見を聞き入れ、サービス向上に活かしている。得た情報で地域の行事等に参加している。消防の方にも参加して頂き、防災についての理解も深めている。	ホームの活動状況や取り組みを報告し、参加メンバーから意見を聞き入れ、サービス向上に活かしている。得た情報で地域の行事等に参加している。消防の方にも参加して頂き、防災についての理解も深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者、地域包括センター等と常に情報交換を行っている。また、定期的に市町村で開催している研修にも参加し協働関係を築いている。	市町村担当者、地域包括センター等と常に情報交換を行っている。また、定期的に市町村で開催している研修にも参加し協働関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてホーム内研修会を開催し、職員が理解を深め身体拘束ゼロを掲げ、ケアに取り組んでいる。施設内に身体拘束0宣言を掲示している。	身体拘束についてホーム内研修会を開催し、職員が理解を深め身体拘束ゼロを掲げ、ケアに取り組んでいる。施設内に身体拘束0宣言を掲示している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修を行い、話し合うことで虐待防止へ向けた取り組みを行っている。法令も理解し、遵守できるように努めている。施設内に高齢者虐待体制について掲示している。	ホーム内研修を行い、話し合うことで虐待防止へ向けた取り組みを行っている。法令も理解し、遵守できるように努めている。施設内に高齢者虐待体制について掲示している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川の間 実践状況	渦の間 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、入居されていた方が、成年後見人制度を利用されていた。今後同じようなケースが必要となりうるので制度について勉強会を開催し、職員に説明を行っている。	過去、入居されていた方が、成年後見人制度を利用されていた。今後同じようなケースが必要となりうるので制度について勉強会を開催し、職員に説明を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には重要事項説明書の内容について説明を行いホームについて理解、納得を得るようにしている。また、利用時にリスク説明も行っている。	入居の際には重要事項説明書の内容について説明を行いホームについて理解、納得を得るようにしている。また、利用時にリスク説明も行っている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを大切に面談時等で意見を聞くようにしている。各ユニットに苦情処理箱を設置して家族様の意見を聴く体制も継続して行っている。またニーズ調査も実施している。	家族とのコミュニケーションを大切に面談時等で意見を聞くようにしている。各ユニットに苦情処理箱を設置して家族様の意見を聴く体制も継続して行っている。またニーズ調査も実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人で開催している経営会議や、朝礼・職員会議時に意見や要望を聞く場を設けている。常日頃からコミュニケーションをとり、理解を深めている。	法人で開催している経営会議や、朝礼・職員会議時に意見や要望を聞く場を設けている。常日頃からコミュニケーションをとり、理解を深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人が職員の評価体制を構築し、向上心を持つように働きかけキャリアアップ制度を設け、職員各自目標管理シートを作成して職場環境の整備に努めている。	法人が職員の評価体制を構築し、向上心を持つように働きかけキャリアアップ制度を設け、職員各自目標管理シートを作成して職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人でキャリアパス制度を構築している。介護技術等のチェックにより段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。職員が研修に参加しやすい環境づくりを行い、知識、技術の向上を図っている。	法人でキャリアパス制度を構築している。介護技術等のチェックにより段階的にレベルアップが図れる体制をとっている。職員が研修に参加しやすい環境づくりを行い、知識、技術の向上を図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム部会、吉野川市地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し他のホーム職員と交流を持つようにしている。また、法人内施設(グループホーム・老健等)との交流も行っている。	法人内のグループホーム部会、吉野川市地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し他のホーム職員と交流を持つようにしている。また、法人内施設(グループホーム・老健等)との交流も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	川の間	自己評価	渦の間	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面会し、不安や要望を知り、サービスについての説明を行い本人の安心を確保出来る関係づくりに努めている。	入居前には本人、家族と面会し、不安や要望を知り、サービスについての説明を行い本人の安心を確保出来る関係づくりに努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の希望や要望を聴きホームで安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。今までの苦労や家族の意向を十分聴いたうえで対応し、信頼関係をつくるようにしている。	本人、家族の希望や要望を聴きホームで安心して暮らしていけるよう設備の充実、職員の質の向上に努めている。今までの苦労や家族の意向を十分聴いたうえで対応し、信頼関係をつくるようにしている。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用申込時に本人の心身の状態を見極め本人にとってサービスが適切であるか判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けていただけるように努めている。	利用申込時に本人の心身の状態を見極め本人にとってサービスが適切であるか判断している。必要に応じて他事業所と連携を図り、安心、納得の上でサービスを受けていただけるように努めている。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを重ね本人と職員が楽しむことができる関係づくり。共に楽しく過ごすことができるよう努めている。	本人と職員が日々の生活の中で共に高めあえる関係づくりをしている。本人と職員との間で信頼関係が構築できている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と関わる機会を増やし状態・状況報告、コミュニケーションを重ね本人を支えていける協力関係を構築できるよう努めている。	家族とのコミュニケーションを大切にしホームで過ごす時間を作って頂き、共に本人を支えていける体制づくりに取り組んでいる。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設施設の行事に参加したり、地域の夏まつりや文化祭に出かけたり、本人の状態を考慮し支援している。主治医からの往診や受診も行っている。地域の理髪・美容店より施設に来て頂いて交流している。	併設施設の行事に参加したり、地域の夏まつりや文化祭に出かけたり、本人の状態を考慮し支援している。主治医からの往診や受診も行っている。地域の理髪・美容店より施設に来て頂いて交流している。				
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方が、いつも笑顔で明るい雰囲気、関わりあえるよう日々のケアで楽しいコミュニケーションを大切にしている。	入居者の方のできることを実践しみんなで支えあいながら生活している。				

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川の間 実践状況	渦の間 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの暮らしがどのようなものであったか情報を提供し、以前と変わらない生活を送れるよう最大限働きかけを行う。また、法人内の施設を利用してもらうことで交流を続けている。	ホームでの暮らしがどのようなものであったか情報を提供し、以前と変わらない生活を送れるよう最大限働きかけを行う。また、法人内の施設を利用してもらうことで交流を続けている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と関わる中で思いや意向を確認し、何が最良なのか家族を交えて検討している。	本人と関わる中で思いや意向を確認し、何が最良なのか家族を交えて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、地域の人たちから情報を得られるように努めて自施設のサービスに繋げている。	以前の暮らしがどのようなものであったのか本人、家族、地域の人たちから情報を得られるように努めて自施設のサービスに繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活で、できることを見つけ作品作り・レクリエーションに取り組みその人らしく生活できるよう努めている。	日々の生活で、できることを見つけ作品作り・レクリエーションに取り組みその人らしく生活できるよう努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、カンファレンスに関して本人・家族・関係者・職員で意向・意見を聞き介護計画に反映している。楽しく生活ができる介護計画作成に努めている。	アセスメント、カンファレンスに関して本人・家族・関係者・職員で意向・意見を聞き介護計画に反映している。その人らしい生活ができる介護計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護支援経過、モニタリングを作成している。職員間で申し送りノート等で情報を共有している。それを基に評価し今後の介護計画に活かしている。	個別記録、介護支援経過、モニタリングを作成している。職員間で申し送りノート等で情報を共有している。それを基に評価し今後の介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状態変化(重度化等)する入居者の方ができるだけ生活できるよう支援している。本人、家族の状況に応じて通院・協力病院への受診、特養・老健の紹介など個々に合わせて柔軟に対応している。	日々状態変化(重度化等)する入居者の方ができるだけ生活できるよう支援している。本人、家族の状況に応じて通院・協力病院への受診、特養・老健の紹介など個々に合わせて柔軟に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川の間 実践状況	渦の間 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設への働きかけや、運営推進委員、民生委員、ボランティアへの協力を呼びかけている。また、ボランティア受け入れの際は剣の間を活用している。	併設施設への働きかけや、運営推進委員、民生委員、ボランティアへの協力を呼びかけている。また、ボランティア受け入れの際は剣の間を活用している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望されるかかりつけ医を決めている家族と協力し通院・往診を行っている。	本人、家族が希望されるかかりつけ医を決めている家族と協力し通院・往診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の方の健康管理について看護師を配置している。介護職・看護職で連携し、常時利用者の健康管理や支援を行えるようにしている。	入居者の方の健康管理について看護師を配置している。介護職・看護職で連携し、常時利用者の健康管理や支援を行えるようにしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。退院後もかかりつけ医、協力医と連携を図り対応している。	職員が入院時に付添い病院関係者へ情報の提供を行っている。退院後もかかりつけ医、協力医と連携を図り対応している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医、協力病院との連携を密に図り、対応している。	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医、協力病院との連携を密に図り、対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故を未然に防ぐ為、事故防止対策委員会を実施している。事故が起こった際には、検討委員会を開催し、事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合には迅速な行動がとれる体制を整えている。	事故を未然に防ぐ為、事故防止対策委員会を実施している。事故が起こった際には、検討委員会を開催し、事故の再発防止に努めている。急変や事故が発生した場合には迅速な行動がとれる体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の備えとして、非常食を備蓄している。消防署の協力で利用者と共に避難訓練(BCP)等を定期的に行っている。地域の人も一緒に参加し協力体制を図っている。	災害時の備えとして、非常食を備蓄している。消防署の協力で利用者と共に避難訓練(BCP)等を定期的に行っている。地域の人も一緒に参加し協力体制を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	川の間	自己評価	渦の間	自己評価	実践状況
				実践状況		実践状況		実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、十分注意するよう徹底している。また、普段の何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声掛けに配慮している。	ホーム内研修を行い、プライバシーの保護、個人情報の取り扱いについて、十分注意するよう徹底している。また、普段の何気ない会話でも本人のプライバシーを損なわないような対応や声掛けに配慮している。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組み、希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。	入居者が自己決定できる場面づくりに取り組み、希望や願いを把握し、関わる時間を増やしている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の個性に合わせた生活の流れを理解し、一人ひとりに合わせた支援を重視している。	入居者の個性に合わせた生活の流れを理解し、一人ひとりに合わせた支援を重視している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど、本人の望む店に行けるよう努めている。	職員はお化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう見守りや支援をしている。馴染みの美容院へ出かけるなど、本人の望む店に行けるよう努めている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。(活き活き料理教室)野菜の収穫等も楽しんでいただき食事が楽しくなるように支援している。	入居者が職員と一緒に調理を行い、楽しみながら食事ができる環境づくりに取り組んでいる。(活き活き料理教室)野菜の収穫等も楽しんでいただき食事が楽しくなるように支援している。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、不足していないか確認できる体制をとっている。水分摂取については、手作り水分ゼリーを提供している。また、認知症予防料理、全国空弁等といった趣向の凝ったものも提供している。	食事量、水分量をチェックし、不足していないか確認できる体制をとっている。水分摂取については、手作り水分ゼリーを提供している。また、認知症予防料理、全国空弁等といった趣向の凝ったものも提供している。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っている。定期的に歯科衛生士による口腔ケア指導を実施している。	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。マニュアルに沿った研修も行っている。定期的に歯科衛生士による口腔ケア指導を実施している。				

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			川の間 実践状況	渦の間 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をチェックし、排泄パターンの把握に努め一人ひとりに応じた対応(トイレ誘導)を行っている。おむつゼロはもちろん、布パンツ着用率の向上に努めている。	排泄記録をチェックし、排泄パターンの把握に努め一人ひとりに応じた対応(トイレ誘導)を行っている。おむつゼロはもちろん、布パンツ着用率の向上に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取していただき、身体を動かす機会を作り献立の工夫、見直して自然排便できるように取り組んでいる。	水分を多く摂取していただき、身体を動かす機会を作り献立の工夫、見直して自然排便できるように取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前、午後どちらかで入浴できる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境を提供している。	入浴は午前、午後どちらかで入浴できる体制をとっている。家庭的な浴室で落ち着いて入浴ができる環境を提供している。また、月4回程度ではあるが夜間入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムが安定できるようにしている。	日中、散歩や体操等を行うことで生活リズムが安定できるようにしている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。	服薬ファイルの作成や、個人ケースに整理して職員が内容を把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族の協力を得て入居者本人の希望や嗜好に合った役割づくりを行っている。	家族の協力を得て入居者本人の希望や嗜好に合った役割づくりを行っている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいところや、お買い物に出かけたり外食、ドライブなども行っている。	行きたいところや、お買い物に出かけたり外食、ドライブなども行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	川の間	自己評価	渦の間	自己評価
			実践状況		実践状況		実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	川の間	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	渦の間	お金についての理解ができる人には、家族の協力を得て少額のお金を持っている人もおり、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。	川の間	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。	渦の間	電話したい希望のある方には、すぐ対応し連絡できるようにしている。手紙やハガキのやり取りも支援している。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。家具などで安心して生活できるようにしている。吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっている。	川の間	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。家具などで安心して生活できるようにしている。吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっている。	渦の間	季節感のある環境づくりを入居者の方と一緒にしている。家具などで安心して生活できるようにしている。吹き抜けと床暖房で快適な生活空間となっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。菜園での活動ができる。	川の間	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。日差しが差し込み明るい気持ちになれる。	渦の間	コタツや和室、テーブルやソファで、居心地の良いくつろげる空間をつくっている。日差しが差し込み明るい気持ちになれる。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。	川の間	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。	渦の間	写真や家で使っていた家具をそのまま部屋に持ち込まれ馴染みの生活スタイルに合わせた部屋にしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。また、トイレと分かるように目印をつけて対応している。	川の間	環境は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。自分の居室が分かりやすいような工夫を行っている。	渦の間	環境は整っており、安全な生活環境を構築し、入居者にとって危険なものは配置せず安全に生活できる環境を整えている。自分の居室が分かりやすいような工夫を行っている。